

＜編集部にて＞の訳

- W: こんにちは、マイアー君！
- M: こんにちは、ヴェルナー編集長。ああ、クリスマスソングだ！ 編集長、もうすっかりクリスマス気分ですね！
- W: もちろんですよ。だって、クリスマス前の最後の週末でしょ。こういう時期には、読者のためにもクリスマスについて何か書かなきゃ。
- M: でもぼく、まったくそんな気分じゃないんです。それにこういういったクリスマスソング、今の時期どの店でもどのデパートでも、いたるところで聞こえてきますけど、それもそんなにほくの好みじゃないんです…。
- W: でも何と言おうとクリスマスなのよ、今の時期は！ とにかくまずはインターネッで調べられるわよね。「クリスマス」とか「クリスマスの風習」とか、あるいは「エルツ山地」といったキーワードで調べれば、十分情報が手に入るはずよ。
- M: エルツ山地は、クリスマスと何か関係があるんですか？
- W: おおいにあるわ。あそこでは、クリスマス用の飾りがとても多く作られるの！ たくさん森と雪におおわれた山々に囲まれた地方だから。
- M: いいですね、じゃあすぐに出発します！
- W: また何か食べてるの？ 今度は何？
- M: これがプフェアヌス（香辛料、蜂蜜などを使ったクリスマス用の焼き菓子）で、こちにあるのが「シュトリツェル」です。
- W: 「シュトリツェル」？ いったいそれは何なの？
- M: ドレースデンでのシュトレン（ドライフルーツ、アーモンドなどを入れて焼き、粉砂糖をまぶしたクリスマス用の菓子パン）に対する呼び名です。ドレースデンには「シュトリツェル市」って呼ばれる大きなクリスマス市が立つんですが、そこでこれらのものを買ったんです。ついでながら、インターネットでレシビを見ることもできますよ。URLは、www.weihnachtsbaeckerei.com。
- W: ちょっと見せてちょうだい…。そんなに難しそうじゃないわね。
- M: ええ、だからここにあるのもぼくが自分で焼いたんです。しきたりどおりにね。スーパーで売られているクリスマスの焼き菓子がおいしいことは、めったにないですから！
- W: クリスマス市についても、ちょっと話してみて！
- M: ドレースデンのクリスマス市はとても大きいので、どちらかというときはエル

ツ山地にあるザイフェンのクリスマスマス市に行きたかったんです。あそこはとてども雰囲気がよくて、雪だっって積もってました。とてもすてきなところでしたよ。そこにはモミの木が立てられ、本物のクリスマスの雰囲気か漂っていますし、本当にたくさんのクリスマスマス用アクセサリーが売られたり、あちこちに並べられてたりもするんです。

＜雑誌記事＞の訳

ザクセンのクリスマス

クリスマスはキリスト教のお祭りで、イエス・キリストの降誕を祝うものです。しかしそれは、まさに一年で最も暗い時期に催されます。この時期には、キリスト生誕以前の時代、昼間が再び長くなる日の変わり目を祝っていました。この時期に、暖かさや光、また何らかの緑を欲するというのは、とりわけこのような憧れのひとつの表現ミの木、あるいは「クリスマストリー」は、とりわけこのような憧れのひとつの表現なのです。もともとこのモミの木の伝統は、だいたい17世紀になってやると生まれたものです。ほぼ同じ時期に、「クリスマスマス=イヴ」12月24日に、子どもたちのためのプレゼントを運んでくる「サンタクロース」や「クリストキント」といった伝統も生まれました。今日もなお、待降節の時期にはそうするように、かつては緑の枝で、あるいはそれで作った輪で装飾が施されてきました。クリスマスの準備期間はだいたい4週間で、クリスマスの4週前の日曜日に待降節が始まります。待降節の時期は、日曜ごとにモミの枝で編んだ「アドヴェンツクランツ」の上のろうそくに1本ずつ火をつけ、クリスマスマス用の焼き菓子を食べ、コーヒーを飲み、クリスマスの歌を歌いながらその週を祝います。子どもたちは、12月1日に「アドヴェンツカレンダー」をもらいます。そのカレンダーからは、プレゼントの日である12月24日まで毎日、たとえばチョコレートなどの小さなプレゼントが出てくるのです。12月25日と26日は、ドイツでは祭日になっていて、たいてい家族で過ごしますが、そもそもクリスマスは、むしろ穏やかでゆっくりと思いを巡らす家族のお祝いなのです。それに対して、ジルヴェスター（大晦日）は、花火を上げ、騒々しくにぎやかです。

(トーマス・マイアー)